

令和4年度 第2回
 泉大津市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進委員会
 議事録

開催日時	令和5年3月23日(木) 午後1時30分～午後3時10分	
開催場所	ベルセンター 2階 第1研修室	
出席者委員	川井太加子、長野正広、藤原謙一、八木秀富、檀秀子、丸山喜弘、上東千草、高寺壽	
傍聴者	0名	
事務局	保険福祉部長 高齢介護課長 高齢介護課参事 高齢介護課給付保険料係長 高齢介護課長寿推進係長 地域包括支援センター所長 地域包括支援センター	松下 良 吉野 久絵 大和 宏行 柳原 京子 寺岡 早苗 鎮西 千晶 浅原 豊
案件	(1) 令和4年度泉大津市地域包括支援センターの評価及び事業計画について (2) その他	
資料	資料1-1 地域包括支援センターの評価について 資料1-2 地域包括支援センター運営指針 資料1-3 地域包括支援センター事業計画(案) ・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査<集計結果の概要> ・在宅介護実態調査<集計結果の概要>	

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事務局	<p>定刻となりましたので、ただいまから第2回泉大津市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進委員会を開催いたします。</p> <p>なお、本会議は公開となっております。本日傍聴者の方はおられません。まず資料の確認をさせていただきます。</p> <p>本日の会議を進める前に推進委員会設置要綱第5条第2項の規定により、出席委員は8名ですので、本委員会の会議は成立いたしますことをまずご報告させていただきます。</p> <p>本委員会は、地域包括支援センターの運営についてご審議いただきます。それではこれより審議に移らせていただきます。設置要綱第6条第1項の委員長は議長となる、の規定に基づき以下の事案について議長と代わります。議長、よろしく願いいたします。</p>
委員長	<p>では早速始めてまいりたいと思います。本日もどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それではまず本日の会議につきましては傍聴の方はいらっしゃらないと先ほどご説明がありましたので、このまま進めさせていただきます。</p> <p>それでは案件（1）令和4年度泉大津市地域包括支援センターの評価及び事業について事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>案件（1）令和4年度泉大津市地域包括支援センターの評価及び事業について説明</p>
委員長	<p>ただいま説明をいただきましたことについてご意見、ご質問がございましたらお願いいたします。</p> <p>私からお尋ねいたします。今までずっと確かにレーダーチャートで夜間、早朝窓口というものが書かれていましたが、これに対して代案というのでしょうか、代わりに夜間についてはこういうふうなことで対応していますというようなことがありますでしょうか。</p>
事務局	<p>代案については、現在、包括支援センター業務ではありませんが、相談を受けていただけるような体制づくりということでいきいきネットというものを市内の特養中心に相談窓口を設けています。</p> <p>同じくそちらのほうに個別で動いていただけるようなコミュニティソーシャルワーカーを配置して、なるべく地域の方が相談できるような体制づくりがなされていますが、それがフル活用できているかという課題があると思っています。今後、その辺の活用も踏まえて検討が必要だと考えています。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
委員長	<p>今、そこがどのぐらいの相談を受け付けているのかという現状を把握していただいて、このままだけなのか、それとも言われているようなかたちでできるだけ早くもっていったほうがいいのかということを検討していただきたいと思います。</p> <p>他にございませんか。よろしいですか。ただいまの地域包括支援センターの評価及び事業計画については以上とさせていただきます。</p> <p>では次に地域包括支援センターの運営方針及び事業計画について説明をお願いします。</p>
事務局	地域包括支援センターの運営方針について説明（資料1-2）
委員長	<p>ただいま説明がございました運営方針についてご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。資料1-2です。</p> <p>5-3包括ケア会議推進業務。そして5-5生活支援体制整備事業が追加されたということです。</p> <p>では今この時点で運営方針については特にご意見、ご質問等ないようですので、次の事業計画のほうに進めていきたいと思っております。</p> <p>では事業計画についてのご説明をお願いします。</p>
事務局	泉大津市地域包括支援センター事業計画書（案）について説明（資料1-3）
委員長	泉大津市地域包括支援センター事業計画書（案）についてご説明いただきました。ご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。
委員	<p>説明どうもありがとうございました。日頃いろいろお世話になり、どうもありがとうございます。</p> <p>今、地域包括支援センターの来年の事業計画書を拝見いたしまして、この資料をいただいた時に先に目を通させていただいたんですが、かなりの業務量があるなというのが率直な意見です。専門職の確保が難しいという状況の中でこれだけの業務をしなければならないというのは非常に大変で、やはり地域包括支援センターは我々ケアマネジャー連絡会の中でも中心となってやっていただかなければならない部分にもなります。</p> <p>日頃から私も勉強させていただいていまして、かなり業務量が多いということは把握しておりますし、われわれケアマネジャーとしてのもっといろいろ連携を図りながらいろいろなことをやっていかなければいけないということを説明を聞いて感じた次第です。</p> <p>泉大津市自体ケアマネジャーさんが少ないという現状が正直ありまして、</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
委員長	<p>我々もすぐに何かできるかといったら難しいのですが、来年度も私自身連絡会の会長を引き続きさせていただきますので、連携を図りながら少しでも地域包括支援センターさんの業務と一緒にやっていければなということを思いましたのでお話しさせていただきました。いつもお疲れさまです。ありがとうございます。</p> <p>地域包括支援センターとしたら非常に心強いお言葉をいただいたと思います。他にございませんか。</p> <p>ケアマネジャーとしてお仕事されている方々から見ても地域包括支援センターは非常に業務量が多いし大変だろうというようなご感想をいただいておりますので、できるだけ直近に人材は本当にこれで十分なのかどうかということも確認して頂き、対応をご検討いただけたらと思います。</p> <p>では次に進みますが、ご感想などは最後にいただけたらと思います。前回の委員会でご審議いただきました第9期の計画策定についてのアンケート調査結果についてご説明をお願いいたします。</p>
事務局	アンケート調査結果について説明
委員長	ただいまの説明についてご意見、ご質問があればお願いします。
委員	何点か質問と確認したいことがあります。まず介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について、家族構成で息子、娘との二世帯とありますが、これは1つの世帯で息子、娘との二世帯の同居ということですか。
事務局	高齢者の世帯と息子世帯が同居されている場合ということです。
委員	二世帯ですね。二世帯というと2つの世帯が住んでいるという感じを受けますので。
委員長	世帯が違うということですね。
事務局	そうですね。同居しているけれども世帯が違うということです。
委員長	2つ世帯があるということです。
委員	<p>そういうことですか。2つ世帯があるということですね。</p> <p>それからもう1つ教えてほしいのは、いろいろな調査結果が出ていますが、</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事務局	<p>この調査票で説明の中で泉大津はコンパクトな市なので自転車の利用が多いという特徴があるということでしたが、後の調査項目で特に泉大津が他の地域あるいは平均的なエリアと比べて違う点はございますでしょうか。</p> <p>泉大津市さんが特筆してというよりは、他市も似たような状況が多いように考えます。やはりコロナの影響と言いますか、その辺りでやはり外出の頻度が下がっているといったところが顕著に出ている自治体もございます。その辺りについては4ページの上段のところになりますが、泉大津市さんの場合は外出の頻度がそれほど下がっていないと言いますか、コロナの影響から徐々に脱しつつあるかなというふうには考えます。外出が頻繁になってきている状況が伺えます。</p> <p>ただしやはりコロナの影響が長く続いたというところで、うつ傾向が心配されていますし、閉じこもり傾向といったところに少し伸びがみられます。今後、心身の状況には注視していく必要があると思います。</p>
委員	<p>もう1点だけ。例えば、地域包括支援センターを知らない人の割合が多い。何か相談する時に地域包括を知っている人だったら地域包括に相談する。あるいはケアマネを知っている人はケアマネに相談する。民生委員を知っている人であれば民生委員に相談する。民生委員という制度を知らない方もかなりの割合でおられると思います。そういう方がまず相談に来た時、あるいはどこに相談するか。パンフレットをご覧になって知っていれば行くんですが、知らない人はどこへ行くのでしょうか。まず市役所に相談に来るのでしょうか。その辺が分かりません。ここに来れば地域包括へ行ってくださいとか案内はできるんですが。その辺が実態はどうなのか教えていただきたいのですが。</p>
事務局	<p>数値的なものがなくて申し訳ありませんが、これも本当に実感していることですが、他市に比べて泉大津市役所の来庁者数はすごく多いんです。とりあえず市に聞いたらいいんちがうかなというような地域の方の認識もあるのかなと個人的には思っています。結構、市に来られる方が多いので、そこからつないでいっています。そういう特徴があるのかなと思っています。</p>
委員	<p>私は介護者家族の会という会をらせていただいています。配偶者にしても子どもにしても、ひょっとしたらこの人、認知症にかかっているのではないのだろうかという気付きは皆持っているんですが、お尋ねしたいんですが、例えば、「あんた認知症と違う？」という言葉は絶対使えませんし、病院へ行こうと言っても本人からは「なんで病院へ行くの」という言葉が多分返ってくるかと思うんです。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事務局	<p>われわれ介護者家族の会では認知症が疑われるお友だちや配偶者などにどういいう言い方をして病院へ行きましようと言うのかというところを勉強させていただいていますが、地域の人たちにはどういうふうに答えればいいのかなど。一般人の私としましては、この数字を見せていただくよりもどうやってつなげていったらいいかなとちょっと思いました。私も代表者としてお勉強させていただきたいと思っていますので、どなたかお答えお願いいたします。</p> <p>市では令和4年度9月からもの忘れ検診という認知症の検査を市民の方は1回無料で受けていただけるような制度を作らせていただきました。</p> <p>市内6カ所、認知症サポート医の方々の協力を得て、身近に簡単に気軽に行っていただくような手段を設けました。ただ、今おっしゃっていただいたようにそこにつなげていく方法。どんなふうにつなげていったらいいんだろうかというのは、我々の課題の一つにはなっています。</p> <p>ちょっと話がそれるかもしれませんが、認知症の診断を受けられた方、認知症の疑いがある方という診断結果を市のほうにいただいています。その中に支援を求めるかどうかというチェック項目を本人さんや家族さんに書いてもらっているんですが、いざ我々の手元にその書類が来て電話を掛けたら、「そんなの言ったっけ」とか、実際に訪問に行かせてもらっても「べつに私、そんなの今は自分のことできてからいらないよ」と言われることがあります。アプローチしても支援や改善につながらないというのは実際あるところですよ。</p> <p>今おっしゃっていただいたように、そのハードルというのは本当に皆さんと一緒に考えていかなかったら行政でこういうことをやるといいよねと思っても、地域の方々の認識の差でつながらないところがやっぱり大いにあるのかなとおっしゃいます。</p> <p>いかにそういう制度や支援につながるか。いかに説明をしていくかというのは課題として皆さんの意見を聞かせていただけたらなと思っています。</p>
委員	<p>認知症が心配で受診したいという場合はまず内科に行くべきですか。それとも今は各自MRIを撮りに行けますので、そこへ行くべきなのか。それをお聞かせいただけますか。</p>
委員	<p>まず初めの質問「どうやって認知症の検査を受けさせるか」ですが、これは大変難しいことで、こちらからお答えさせていただきますと、もの忘れが心配とって検査に来られる方は認知症ではない方が多いです。実際の認知症の方は、「いや、俺はそんなぼけていない」と言う方が多いので、その辺のギャップをどのように見るかです。家族が無理矢理連れてこられて認知症の検査をされるような場合、認知症の検査をしていくと怒り出すんです。ばかにするなど。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
	<p>だから非常に最初の病院は難しい。</p> <p>何が一番いいかというと、本人にやはり気付かせるしかない。それには地域包括でやっているような講習や市民講座みたいなので、認知症というのはどういう病気であって、どういうことに困るのかということを知っていただく。そうしたら自分も不安やなど。</p> <p>そういう自覚が芽生えれば認知症もの忘れ検診を受けていただいて、その後、認知症の治療につなげていくことができます。周りがちょっともの忘れあるから検査受けようかという言い方をすると絶対ダメなんですね。ですから本人にさせるしかないかなと私、個人的には思っています。</p> <p>次にまずどこで相談するのかですが、相談は基本的にかかりつけ医、どこでもいいです。耳鼻科でも整形外科でも自分がとにかく一番親しくしている医療機関に行って相談していただいたら、そこの先生はもの忘れ検診とか知っていますので、紹介してくれると思います。いきなり脳外科とか専門のところに行く必要はなくて、とりあえずかかりつけ医に行ってください。</p>
委員長	<p>では先ほどの質問に戻ります。私のほうから質問させていただきたいのですが、介護予防日常生活圏域ニーズ調査の2ページ目のデータやグラフがこのまま計画に使われていくということでしょうか。この形式で。計画にはこれが使われるのでしょうか。</p>
事務局	<p>報告書ではこういう記載をさせていただきますが、計画の中で参考というかたちで。</p>
委員長	<p>これが冊子になるんですか。</p>
事務局	<p>いいえ、違います。これはコンパクトに概要というかたちでまとめさせていただきましたので、冊子のほうではそれぞれ問1から全ての項目について単純集計をした内容が全てグラフ化されるかたちになります。</p> <p>まとめとしてこういう成果付の評価のページもございますが、これだけではありません。</p>
委員長	<p>例えば、2ページの一番上に非認定高齢者のリスクという言葉が使われていますが、これは要介護認定を受けていない65歳以上の方ということですか。</p>
事務局	<p>そうです。</p>
委員長	<p>わかりやすい表記にしていただければと思います。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事務局	これについては表題のほうにも挙げていますように、老研式という活動指標がございまして、そちらに基づいたかたちの算定方法になっています。私どもが勝手に点数化しているわけではありません。そういった指標に当てはめて計算をしています。
委員長	今回、令和4年度調査結果をグラフにしてご説明いただきましたが、最終的には前回と令和4年度とが記載されたものをお出しいただけるのでしょうか。
事務局	今回ページ数の制約もございましたので前回との比較が挙げられていませんが、報告書のほうでは前回と今回の推移と言いますか、経年変化は見られるかなと思っています。
委員長	特に大きな変化というのがあったところはどこになりますか。
事務局	報告書は現在作成中ですので、まとまった段階でまたご報告させていただこうと思います。
委員	基本的なことですが教えてください。調査対象が65歳以上の方となっていますが、上限は何歳でしょうか。年代別の年齢分布、何歳代が何%とか。年代によって全然回答は違うと思います。
事務局	対象者の上限はございません。
委員	65歳の方と90歳の方と一緒に結果を載せてしまうのはどうかと思います。
事務局	今回は単純集計のかたちで載せていますが、報告書では性、年代別にそれぞれクロス分析をした内容で載せる予定です。
委員	それから9ページ、新型コロナウイルスの影響について「減少した」「変わらない」とありますが、具体的にどのような文章で質問されたのですか。
事務局	読み上げさせていただきます。「新型コロナウイルス感染症が社会に影響を与える前と現在を比較してあなたの日常生活はどのように変化しましたか」という内容になっています。
委員	2020年以前ということですね。

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事務局	以前です。
委員	私もこれを調べていまして2020年と2021年、2022年では全然違うんです。前と比べるといっても、人によっては去年と比べる方もおられるかもしれませんが。そうすると回答が違ってきますので、やはり時系列で検討できたらよかったですと思います。市では国保のデータを見ることができますよね。健診の間診票があるんです。あれで同じようなデータが取れますので、それで時系列で2018年からの変化とかを見ていったら面白いのではないかと思います。私もやっているんですが、サンプル数が少なすぎますので、KDB（国保データベース）で解析したら面白い結果が出るのではないかと思います。以上です。
委員長	他にございませんか。
委員	今の話の続きですが、新型コロナウイルスの影響があったかどうかというのを同じ人に聞くと。例えば、3年前に同じ方がコロナのあるなしに関わらず、80歳の方が83歳になられたら自然に外出が減ってくるわけです。だからちょっとその辺がどうかと。コロナの影響がなくても下がってくると思います。その辺よく分からないのが出てきますので。
委員長	他にございませんか。
委員	アンケートを見ていて、私は介護サービスについては素人なんですが、介護認定を受けていない85歳以上の方の集計では、7ページで今後、自宅で介護保険サービスを受けて暮らしたいという方が一番多いというような意向が出ていますが、もう一つの介護認定を受けている方の調査では5ページ、サービスを利用していない。介護保険を「利用していない」方が37.8%いらっしやって、7ページでは介護保険以外のサービスを利用している方が45%いらっしやると出ていますが、見た限りでは、介護認定を受けているけれども使っていない人が多くて、しかも介護保険以外のサービスを利用している人も多いのだと。この介護保険以外のサービスを利用している人が介護保険をすでに使っているけれども足りなくてさらに利用しているのか、あるいは介護保険を持っているけれども介護保険で使えないサービスを利用しているのかということすごくギャップがあるというか、何のためのサービスなのかなという感じがすごくします。 7ページの下【在宅生活の継続に必要なサービス】で「外出同行（通院、買い物など）」の数字が高く出ていますが、この辺り介護保険の計画を策定するにあ

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
委員長	<p>たり今後どのようにサポートしていくのか教えていただきたいのですが。</p> <p>ただいまのご質問についていかがでしょうか。介護保険と介護保険以外の差についてです。</p>
事務局	<p>前半の数値について、介護認定を受けているけれどもサービスを使っていない方がいるのではないかとか、数字の割合についてもお話しいただきましたが、この在宅介護実態調査というのは要介護度の紐付けもできますので、もう少し詳細な結果がお示しできると思っています。</p> <p>外出在宅生活の継続に必要なサービスのところで言っていた外出同行や移送サービスについては、正直、今期以前からずっと指摘いただいています。アンケートでもすごく高い数値が出てきています。</p> <p>今、当市ではふれあいバス、福祉バスを運行したり、介護タクシーについても参入いただいているところを紹介する程度にとどまっているのが事実です。この市域内で移送サービスを新たに作っていくとか、外出同行でどなたか同行してくれるサポーターみたいな方というところは、正直まだ検討できていません。</p> <p>ただこのニーズというのは今後も高くなっていくとは思っていますので、引き続きこれは継続課題として検討していかなければならないと考えています。次期計画にこういうサービスを作っていくよというのは現段階では申し上げにくいのですが、この辺りの課題というのはこちらとしても重要だと思っています。</p>
委員長	<p>よろしいですか。では他にご質問ございませんか。</p>
委員	<p>在宅介護実態調査についてですが、要介護認定者 1,000 人となっていますが、集計では介護度別に出すことは可能ですか。</p>
事務局	<p>可能です。</p>
委員	<p>分かりました。</p>
委員長	<p>他にご質問ございませんか。今回はアンケート調査の回答はこうでしたというところを説明いただいたかと思います。これは今までも協力して同じような質問で、国が出してきている質問項目ですよね。ですから変化を追える内容になっています。次回の報告書ではそういうふうなところから見ていくということになるかどうかと思います。時期はいつぐらいですか。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事務局	<p>まだ計画を立てていません。というのも、来年度の委員会は年間5回を予定しています。策定年度になりますので回数は増えますが、大体5月か6月ぐらいに開催できればと現時点では考えています。</p>
委員長	<p>スケジュールを早く立てていただきたいと思います。</p> <p>ご質問がないようですので、この件についてはこれで終わらせていただきます。</p> <p>本日は任期最後の委員会ということですので、何か皆さんから一言ずつご意見いただきたいと思います。</p>
委員	<p>皆さん、ご苦勞様でした。私は民生委員としてこの席に座らせていただいています。高齢化が進む中で世話をする側の民生委員も高齢化が進んでいます。一応75歳定年になっていますが、74歳の場合はもう1期できるということで、実質的には77歳ぐらいまでやっていただくかたちになっています。</p> <p>この前、笑えない話がございます。訪問しているほうが認知症にかかっているのではないかと。私としても聞いていると寂しくなるようなことがありました。</p> <p>私もまもなく72歳になるのですが、もの忘れが非常に激しくなってきました。会議を忘れることはありませんが会議の時間を間違えるということが結構出てきます。ここは勉強の場所なので皆さん方についていこうと思っていますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p>
委員	<p>ボランティア連絡会のほうで会長をさせていただいていますが、今日も70いくつの方が少し認知症ではないかと。とても聞きづらい。自分もそちらのほうになっていくのかなと。家族でも認めたくはないですね、絶対に。</p> <p>先ほど先生がおっしゃっていたように。何しろ認めたくない。でもあの人おかしいというのはどの辺から判断されるのかということも私のほうも分かりません。自分自身もの忘れは50、60歳頃から何かしらあります。認知症という言葉はすごく嫌ですね。昔はぼけとか言っていましたが。そういうことを言われているようで、それを認めたくないというのはすごくあります。</p> <p>ボランティアの活動をされている方も民生委員の方と一緒にみんな高齢化してきていますので、活動もちよっとできなくなってきました。新しい人が入らないという問題もあります。</p> <p>地域では介護の出張相談会をどのように開催するのかと疑問には思ってい</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
委員長	<p>るのですが。地域で出張相談会を設けられるとご近所の方の目があってなかなかそこへ行けない。直接、家へ来ていただけるのならいいんですが。その辺りどうなのかなと思っています。</p> <p>ボランティア連絡会としては年々高齢化してきていますが、何とかみんなまだまだ80いくつでも活動されている方がいらっしゃいますので、よろしく願いします。</p> <p>ありがとうございました。</p>
委員	<p>ケアマネ連絡会のほうから6年この会議に参加させていただきました。私自身も6年前と比べましても貴重な経験をしまして、またこちらにいらっしゃる地域包括支援センターの皆さんであるとか社会福祉協議会の皆さんであるとか、そういった皆さんと連携を図りながら日々成長できたかなと思っています。</p> <p>やはり認知症のことであったり、病気のことなどいろいろと分からないところもあったんですが、今お話があったように自分自身は認知症じゃないからサービスは使わないという方がいらっしゃったり、今市内の事業所はみんなどこどこデイサービスとか大きな看板を掲げた車で迎えに行っています。そういったものが嫌だという声もあるんですね。もしかしたら我々サービス事業所のほうも発想の転換が必要な時期にきているんじゃないのかなと。今までの当たり前がもう当たり前じゃなくなっているような気がします。</p> <p>この会議に出させていただいてそういう気付きが少しずつできていっているかなと。まだまだ足りないですが、よい機会を与えてくださってありがとうございました。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p>
委員	<p>私も介護者家族の会の会長として受け継がせていただきまして、1期が2年でございまして、4年間この中でお世話になり、大変いい勉強をさせていただきましたと思っています。</p> <p>本当に数字を挙げて勉強させていただくということはほとんどないことで、ここへ来て、こういうところがあるんだなというところがたくさん勉強させていただきましたありがとうございます。来年は会長になりますので、私がどうなるかちょっと分かりませんが、本当によい勉強をさせていただきましたありがとうございます。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
委員	<p>この委員会に出席させていただいて、いろいろと市の高齢者計画の策定をする上で大変な作業をされているなどということはよく分かりました。市の方のご努力に非常に敬意を表する次第です。</p> <p>私は高齢者施設の運営もしているのですが、いかに要介護状態にならないようにするにはどうしたらいいかと。やっぱり介護予防は非常に大事なかと私は認識しております。</p> <p>怖がらず外出できる機会があれば体を動かす機会を作ると。そういうことを進めていくことが高齢者の方が元気で暮らせるまちづくりということで非常に大事なことだと思います。よろしく願いいたします。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p>
委員	<p>この会に参加させていただきましたが、普段、薬局にいますと介護のほうで関わる機会が少ないので大変勉強させていただきました。ありがとうございました。</p> <p>認知症の話がよく挙がっていますが、薬局でもお薬が入っていないとかなくなるとか言われる方がおられます。この間も違うのが入っていたと患者さんが持ってこられたんですが、よくよく見ると5年前に渡してお薬だったんです。説明して理解していただくのがすごく大変でしたが、そういうことも今後出てくると思います。</p> <p>先ほど集計のサービス外のところにも触れさせていただきましたが、やっぱり病院は何とか行けるけど、その後、処方箋を持って薬局に行くのもしんどい。歩くのがやっとなという方が年々すごく増えてきているなどという実感がすごくあります。そういったところのサポートが今後医療と介護と行政のほうで力を合わせてやっていかなければいけないなというふうにはすごく感じています。どうもありがとうございました。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。</p>
委員	<p>医師会から参加させていただきました。医師会も体制が変わりましたので、私も今日これで最後になります。いろんな立場のいろんな職種の方の意見を聞きまして、大変勉強になりました。医師会だけではどうしても世の中全体と言いますか、世間を知らなかったことも多々あったんですが、こういう会議に出席させていただいていろいろ勉強になりました。感謝しております。どうもありがとうございました。</p>
委員長	<p>皆さんどうもありがとうございました。私からは今回こうして計画を作って</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
	<p>いきます。日常生活圏域ニーズ調査などはたくさんの方に回答いただいています。在宅介護実態調査の方も6割方の方々にお答えいただいている。お答えいただいた方が答えて良かったと思えるように、要は自分たちが答えたものがこういうふうになったんだと。私は多いほうに入っているんだ、利用したほうに入るんだとか、利用した人は5割かとか、そういうことで自分をグラフにあてこんで自分のこれからを考えられるような、そういう利用の仕方をこれから報告書にしていけないといけないと思います。</p> <p>ですから事業所とかに配って終わるというのではなく、もう少しシンプルに概要版が作られますが、それをもう少し市民に分かりやすいようなものにするとか地域包括などと一緒に工夫しながら、そういうものを活用して、今回はこういう結果でしたねというようなことをグラフでお示ししながら、アンケートをいただいた結果がこうですというような返し方をする。そういう活用の仕方をして、また次の調査の時に多くの人にアンケートに協力いただけるようなかたちにしていけるといいかなと思います。</p> <p>今回、皆さんからいろんなご意見をいただきましたが、いただきましたご意見の中で事務局として前向きに検討していただけるようなものもあったかと思えますので、今後の取組に反映させていただきたいと思えます。どうもありがとうございました。</p> <p>では事務局にお返しいたします。</p>
事務局	<p>委員長、どうもありがとうございました。それでは閉会にあたり保健福祉部長のからごあいさつ申し上げます。</p>
事務局	<p>このたび熱心にご議論いただき、ありがとうございました。</p> <p>今日でこの期に関しては最後ということですので、一言お礼申し上げます。委員長はじめ委員の皆さまにおかれましては令和2年度から3年間にわたりまして高齢者保健福祉計画並びに介護保険事業計画に昨年からの進捗管理においても熱心にご議論いただきまして本当にありがとうございました。</p> <p>この令和2年度からの3年間ということであると、ずばりコロナ禍まっただ中の3年間でございまして、委員の皆さまの顔も拝見することができませんでしたことも残念ですが、また次期計画の時にお会いできる方もいらっしゃると思いますので、その際にはよろしく願いいたします。</p> <p>この3年間に皆さまからいただきましたご意見等については次期計画に取り入れるよう、また生かしていけるように考えておりますので、このたびご退任されます委員におかれましては、引き続き本市福祉行政に格別のご理解、ご支援いただきますようお願い申し上げますと共に、引き続き委員をお引き受けいただける方におきましてはご尽力いただきますようお願い申し上げます、</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事務局	<p>この3年間のお礼とさせていただきます。本当にありがとうございました。</p> <p>先ほどお話が出ておりましたもの忘れ検診についてのちらしを改めて配布させていただきますので、できましたらPRをしていただきまして、また令和5年度以降も本市は積極的に取り組んでいくつもりでございますので、ご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>これをもちまして令和4年度泉大津市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進委員会を閉会いたします。ありがとうございました。</p> <p>(終了)</p>